

# 学会ニュース

## 目次

・ 2022年度学会費納入のお願い	1
・ 第44回大会について	1
・ 第45回大会について	2
・ 2022年国際執行委員会報告（玉田 敦子）	2
・ 第16回国際18世紀学会ローマ大会（2023年7月）について	3
・ 『啓蒙思想の百科事典』刊行に寄せて（逸見 龍生／長尾 伸一）	3
・ 水田洋会員の逝去について	4
・ 事務局より	5

## 2022年度学会費納入のお願い

代表幹事 逸見 龍生

学会の活動は皆様の会費によって支えられています。事務局におきましても円滑な学会運営のため身を引き締め変わらず努力する所存ですが、会員の皆様にはどうか苦しい学会の財政事情をご理解いただき会費納入にご協力をお願い致します。

口座番号は以下の通りです。

〈郵便口座振替で振り込む場合〉

口座記号番号：00800-7-183350 口座名称：日本18世紀学会

〈銀行等から振り込みする場合〉

銀行名：ゆうちょ銀行 店名：〇八九店（ゼロハチキュウテン）

預金種目：当座預金 口座番号：0183350

なお、所属大学の名義で会費を振り込まれる場合は、(1)振込用紙に会員氏名を記すか、(2)大学の担当者または会員個人から学会事務局宛にメールによる連絡をするか、いずれかの対応をお願い申し上げます。

## 第44回大会について

日本18世紀学会第44回大会は、2022年6月25日(土)にZoomを利用したオンライン形式で開催されました。共通論題は「ルソーという問い：感覚の論理、真理の政治——内と外をつなぐもの——」で、コーディネーターは佐藤淳二会員でした。レクチャーコンサートとして、岩佐樹里さんによるバロック・ダンスのパフォーマンスを日本18世紀学会公式YouTubeチャンネルで配信しています。関係者の方々に篤くお礼申し上げます。

## 第45回大会について

2023年度の第45回大会は、2023年6月17日(土)と18日(日)に東京大学本郷キャンパスで開催する予定です。ハイブリッド(ハイフレックス)形式については、技術的問題により総会と共通論題に限定し、自由論題は対面形式のみの実施とします。レクチャーコンサートは行いません。

### 共通論題について

本大会では「18世紀の西洋舞台芸術における人種・身体・血」をテーマにした共通論題が開催される予定です。コーディネーターは大崎さやの会員です。

### 自由論題公募要領

第45回大会で発表を希望される会員は、1000字以内の発表要旨をつけて、2023年2月28日(火)までに学会事務局宛、メールか郵便でお申し込みください(連絡先は学会ニュース末尾に記載されています)。なるべくメールをお願いします。メールの場合は、要旨を添付ファイル(「ワード」形式)またはメール本文にコピーしてお送りください。郵送の場合は要旨のプリントアウト原稿および電子ファイル(「ワード」形式で作成されたもの)の両方をお送りください。報告の採用の可否は幹事会で審査し、事務局から後日お知らせいたします。

発表は1件につき50分、うち報告が40分、質疑応答が10分の予定ですが、申込者が多数の場合は、個々の発表の時間を短縮したり、あるいはこれまでの発表の有無、共通論題を含む諸分野のバランスなどを勘案して、幹事会で調整させていただいたりすることもありますので、この点はあらかじめご了承くださいませよう、お願い申し上げます。

詳細はプログラムが決定され次第、事務局から個々に連絡申し上げます。

## 2022年国際執行委員会報告

国際担当幹事 玉田 敦子

2022年度の国際18世紀学会執行委員会は、8月4日、スウェーデンのルンド大学にてハイブリッド方式にて開催され、隠岐会員がオンラインにて、玉田が現地にて参加した。国際執行委員会は2019年のエジンバラ大会以来、パンデミックの影響で対面での開催が叶わず、三年ぶりに臨地での開催が実現した。24名が現地に集い、11名がオンラインにて参加した。

- 1) **国際18世紀学会役員選挙**：2023年は 2023-27年のISECS役員の選挙がおこなわれる。次の選挙においては国際学会から「副事務局長 (Assistant Secretary General)」に隠岐さや香会員(現執行委員・日本学会代表)が推挙されている。国際18世紀学会の役員選挙では従来西欧の学会を代表する研究者が選出されることが多いが、現執行部は例年よりも多様性を意識しており、東アジアからの会員を重職に就けることで18世紀学会の国際的交流網を充実させることが現執行部の狙いであろう。日本18世紀学会の会員におかれては、是非この機会に選挙に投票をいただきたい。
- 2) **国際18世紀学会ローマ大会**：2023年7月3日(月)～7日(金)に、ローマ大学(イタリア)にて国際18世紀学会第16回大会が開催される。大会のテーマは「Antiquity and the Shaping of the Future in the Age of Enlightenment (啓蒙期における古代と未来の構築)」である。(https://isecs-roma2023.net/)
- 3) **国際18世紀学会ローマ大会基調報告**：ローマ大会では7月3日の開催式直後にGlobal Antiquities Plenaryと題されたパネルが開催される。この基調報告には、中国、インド、スウェーデンと共に日本が招聘され、渡辺浩会員を筆頭著者とした報告“The Makings of Antiquity: Japanese Experience in the Seventeenth and Eighteenth Centuries”を隠岐会員と玉田との3名で作成、現地では

隠岐会員が報告をおこなう予定である。

4) **若手研究者支援**：国際18世紀学会は、活動内容を世界的な規模に拡大することによって多様性を実現すること、また若手研究者の育成に尽力することを学会の目標として掲げている。国際18世紀学会では、近年、若手研究者の育成を重要な課題としており、大会時の参加費補助を含めた奨学金支給などに関する議論がなされた。また若手研究者を対象とした、若手セミナーが、2023年はローマで、また2024年はバルセロナ、2025年はウクライナにて開催される予定である。

5) **ウクライナ18世紀学会・ロシア18世紀学会に対する対応（学会ウェブサイト参照）**

2022年5月22日付の書簡により、ウクライナ側代表が国際18世紀学会に対して、ロシア18世紀学会との一切の協力関係を見直すこと、ならびに国際大会へのロシア側研究者の参加を禁ずることを要請していた。他方、ロシア側代表はそれに先立つ5月16日付の書簡において、同国18世紀学会がロシア政府の支援を一切受けておらず、ウクライナに対する戦争にも反対していることを説明していた。8月4日の執行委員会ではこの件について、ウクライナ側、ロシア側それぞれの代表に対するヒアリングが行われた後、審議がなされ、投票により別紙にある四つの方針が定められた。ウクライナ側に寄り添う一方で、18世紀研究の精神に則り戦乱の中でも知的交流を続けることが目指されたが、苦渋の決断であった。国際18世紀学会執行部は継続して両国代表との対話を続けていく予定である。

なお、11月1日にコーフィールド会長から各国学会に向けて、ウクライナから参加する研究者に対する寄付を求められた。日本学会からは600ユーロの寄付を行なった。

## 第16回国際18世紀学会ローマ大会（2023年7月）について

国際18世紀学会の第16回大会は、2023年7月3日（月）から7日（金）までの日程で、イタリアのローマで開催されます。

大会の通常レジストレーションの期限は2023年3月1日です。それ以降のレジストレーションでは追加料金が発生します。最終登録日は2023年6月15日です。

<https://www.isecs-roma2023.net/en/contents/registrations/120>

## 『啓蒙思想の百科事典』刊行に寄せて

代表幹事 逸見 龍生

平素、皆様にはますますご健勝のこととお慶び申し上げます。また、日本18世紀学会の活動にご協力を賜り、心より感謝いたします。

『啓蒙思想の百科事典』（日本18世紀学会 啓蒙思想の百科事典編集委員会編）が一月末に刊行されました。

本学会らしく、国境・地域を超え、専門領域としても多様な項目を広く含むとともに、現在の研究の水準に応えるきわめて充実した内容となったものと自負しております。

会員の皆さまには、企画・編集段階から刊行に至るまでのあいだ、数多くの有形無形のご支援をいただきましたこと、代表幹事よりあらためて心から御礼申し上げます。

このたび、刊行される事典の内容をお知らせすべく、同封のように本事典パンフレットをお送りいたします。また、会員向け割引価格注文書も同封しました。

どうか多くの読み手をうることができますよう、会員の皆さまには、あらためて心よりお願いいたします。

第二次大戦後の日本では啓蒙研究に関する翻訳、叢書、研究書が多く出版されてきましたが、事典のかたちでまとめられたのは本書が初めてとなります。編集にあたっては、「読むことができる事典」という丸善書店の企画に合わせて入門書としての性格を保ちつつ、国際学会と連携して活動している本学会にふさわしく、内外の最新の研究動向やその成果を読者に提供することを目指しました。また学際研究を趣旨として設立された本学会の性格を反映させて、狭義の「啓蒙思想」だけではなく、思想、文化、社会の全般にわたる18世紀の在り方、また地理的には非西洋地域の状況、歴史的には啓蒙の起源と19世紀以後から現代にいたる展開など、関連する多方面の知識を総合的に解説することを目的としました。書名が『啓蒙思想の百科事典』とされているのは、百科全書を念頭におきつつ、本書のそのような内容を示すためです。

百科全書の企画と出版は紆余曲折と苦難を経ましたが、本書は幸い皆様のおかげで大変順調に成長し、大きな遅れもなく今回出版されることとなりました。全体を改めて一読して感じるのは、本書が啓蒙研究者のみならず、近代思想史・文化史を研究する方々が必ず通読されるべき新しい基本文献となっていくだろうということです。編集委員会はまとめ役と原稿の点検を分担しましたが、本学会の開かれた学風にふさわしく、各項目の著者の皆様はそれぞれにご自身の研究を踏まえて自由闊達に論じられ、啓蒙研究に様々な新しい視点を提供しておられます。その点では本書自身が、公的言説圏としての色彩豊かな討議の場を再現しているともいえます。また同時にそれらを通じて本書では啓蒙の全体像が、いまだ教科書等で語られている旧来の啓蒙と明確に区別でき、それを刷新する現代的な形で描き出されています。商業出版としてのページ数の制約もあり、本書が啓蒙のすべてを網羅していると言えない点もあるでしょうが、少なくとも本書は今後の日本における啓蒙および近代思想・文化史研究に不可欠の知的基礎を提供していると思われまます。会員の皆様にお礼を申し上げるとともに、本書が多くの方々の手に渡り、今後のこの分野での研究・教育の推進力の一つとなることを願ってやみません。

## 水田洋会員の逝去について

本学会の創立から現在に至るまで日本18世紀学会の活動を支えていただきました水田洋会員が2023年2月3日、老衰のため名古屋市内の病院でご逝去なさいました。

水田洋先生は、軍国主義による知の閉塞の時代のなか若き学徒として学問を始められ、捕虜収容所の経験を経て帰国、戦後は、多くの同時代の世界的研究者と交流しながら、該博な学識と自由な批判精神をもって学界を牽引し、アダム・スミス研究を始めとする啓蒙思想研究など日本の社会思想史学の水準を国際的なレベルまで高められました。

先生の提唱された「思想の国際転位」という比較思想史的な学問的方法とアプローチは、一国の枠組みやひとつの専門領域に知を閉じこめるのではなく、たえず境界を超えて結びあい、ほつれあって広がっていく「旅をする思想」の多層的で動的な交流・ネットワークの像にこそ、現代のアクチュアリティとも通い合う思想の生き活きとした営みを見出せるとするものでした。

水田洋先生の偉業を一貫しているこうした批判精神の発露と、国際的・学際的な変容と相互連関への強い関心は、私たち日本18世紀学会の学会としてのありかたのすみずみまで深く浸透している、精神的な水脈となっています。

先生の永年にわたる国内外の学界へのご貢献を偲びますとともに、本会として深く哀悼の意を表します。



## 事務局より

### 議事録のウェブ掲載について

幹事会議事録と総会議事録は、学会ウェブサイトパスワードつきで掲載します。

### 日本18世紀学会役員選挙について

当学会では、2年ごとに役員選挙が行われており、2023年はその年に当たります。今回の選挙は、2022年6月25日の総会で改正された「日本18世紀学会の役員選出に関する細則」第3条2項および第7条2項の規定に基づき、電子投票で実施します。詳しくは同封の要領をご参照ください。**投票締め切りは2023年4月1日（土）です。**

### 国際18世紀学会選挙について

2023年は、国際18世紀学会の執行委員会役員選挙の年となります。日本からは副事務局長（Assistant Secretary General）」に隠岐さや香会員が候補として加えられています。投票は国際学会ウェブサイトを通じての電子投票か、郵便による投票か、二つのいずれかになります。詳しくは同封の「国際18世紀学会2023年執行委員会選挙について」をご参照ください。

(1) 電子投票にはISECS-directへのメールアドレスの登録が必要となります。電子投票は2023年3月6日から始まり、5月5日に締め切られます。

(2) 郵送投票については同封の国際学会指定の投票用紙と封筒を使い、所定の形式に従って投票・郵送して下さい。郵送先等の詳細についても「国際18世紀学会2023年執行委員会選挙について」をご参照ください。郵送投票は既に2023年1月9日から始まっており、電子投票と同じく5月5日が現地到着分の締切です。日本18世紀学会事務局を経由する場合は、4月21日を締切とします。

### メールアドレスご登録のお願いとメーリングリストのご案内

日本18世紀学会では、会員の皆様のメールアドレス登録を進めています。それに基づくメーリングリストを介して、学会や研究会のお知らせなどをメールによって会員の方々に迅速にお知らせすることができています。さまざまな案内にメーリングリストを利用します。メールアドレスをまだ登録されていない方や、アドレスに変更のある方は、事務局までご一報ください。

また、日本18世紀学会の全会員は同時に国際18世紀学会に所属するため、日本18世紀学会に登録されたメールアドレスは同時に国際学会にも登録されます。国際学会へのメールアドレス登録を希望されない会員は、お手数ですが事務局まで個別にお申し出ください。

国際学会にメールアドレスが登録されると、国際学会からの重要な連絡を直接受け取ることができます。この登録にともない、各会員にはIDとパスワードが送られます。これを用いると、国際18世紀学会のサイトISECS-directに登録される会員情報にアクセスし、それを修正することができます。

(基本的に個人情報是非公開となっておりますので、希望する会員のみ、ISECS-direct上で「公開」を選択していただくこととなります。) 数年おきの国際学会の役員選挙の際も、このIDとパスワードがあれば、郵送によってではなく、インターネットを通して投票することができます。

国際学会のメール登録一般と個人情報の公開の可否について不明なところがある場合は、日本18世紀学会事務局 (jsecs18@gmail.com) もしくは直接に国際学会ウェブサイト担当者 (Nelson Guilbert氏 : admin@isecs.org) に問い合わせてください。

## 『年報』への論文投稿について

大会での発表をもとにしたもの以外の論文も投稿できます。詳しくは年報または学会ウェブサイト記載の投稿規程をご覧ください。

## 投書欄について

この「学会ニュース」に投書をしていただくこともできます。事務局までお申込み下さい。

## 共通論題のテーマ、および書評対象図書

会員からの提案を随時受け付けています。事務局または担当幹事まで。（ただし、共通論題のテーマ決定に際しては開催校の希望が優先されるので、必ずしもすぐにご提案が実現するとは限りませんが、事務局から開催校や幹事会に伝達します。）

当学会は学際的な学会であるため、会員の研究が広範囲に及び、担当幹事だけでは各分野の重要文献の情報を集めるのが困難です。書評で取り上げるに値すると思われる図書がある場合、事務局までお知らせください。（特にご自分の専門分野が当学会で十分に扱われていないと思われる方は、積極的にご推薦ください。）

## 学会ニュースのエッセー

今のところ、事務局から執筆をお願いしていますが、会員の皆さんからの希望も受け付けています。執筆を希望される方は事務局までお知らせください。

## 寄付のお願い

前号以来、以下の方から寄付がありました。お礼申し上げます。

匿名希望 5口 5,000円

寄付を希望される方は、「寄付金」と明記のうえ年会費と同じ郵便振替口座に振り込んでください。

## 献本

学会宛に以下の図書をいただきました。お礼申し上げます。

- Asuka Yamazaki, *The Development of an Actor's Cosmopolitan and Enlightened Identity: Their Intermediate and Educational Function of Building a Peaceful World and a Prosperous Urban Culture*, Königshausen & Neumann, 2022.
- デイドロ『オランダ旅行』川村文重訳（京都大学学術出版会、2022年7月）
- J・G・A・ポーコック『野蛮と宗教II 市民的統治の物語』田中秀夫訳（名古屋大学出版会、2022年9月）
- ノヴェール『舞踊とバレエについての手紙』森立子編著・訳（道和書院、2022年11月）
- 『イギリス思想家書簡集 アダム・スミス』篠原久・只腰親和・野原慎司訳（名古屋大学出版会、2022年12月）

## 新入会員の方へ

毎年6月の幹事会で入会を承認された方はその年度からの会員となります。6月の幹事会以降に入会を申し込まれた方は12月の幹事会で承認され次年度からの会員扱いになりますので、会費の請求はありませんが、他の会員同様に諸種の配布物をお届けいたします。

## 新会員の勧誘のお願い

ぜひ18世紀研究に関心のある方を本会にご勧誘ください。入会申込用紙は日本18世紀学会ウェブサ

イトからダウンロードできますので、よろしくお願いいたします。

幹事会メンバー（50音順）：出羽尚（年報編集）、岩佐愛（ウェブ／広報）、王寺賢太（大会）、大石和欣（大会）、隠岐さや香（国際執行委員会派遣委員）、金沢文緒（ウェブ／広報）、川島慶子（ダイバーシティー）、川村文重（年報編集）、小関武史（事務局長、会計）、後藤正英（年報編集）、武田将明（年報編集）、玉田敦子（国際執行委員会幹事）、鳥山祐介（年報編集）、逸見龍生（代表幹事）

会計監査：井関麻帆、奥香織

事務局委員：飯田賢穂、高橋駿仁、淵田仁

**日本18世紀学会ニュース 第99号** 2023年2月発行

発行者 日本18世紀学会 代表者 逸見龍生

事務局 〒186-8601 東京都国立市中2-1

一橋大学大学院言語社会研究科 小関武史研究室 日本18世紀学会事務局

e-mail: [jsecs18@gmail.com](mailto:jsecs18@gmail.com)

tel: 042-580-9035

<https://www.jsecs.jp/>